

施策7

道路施設の適正な維持管理

目指す姿

●県民が道路を安心して利用し、安全で快適な日常生活を送っています。

ひろしま未来チャレンジビジョン (P102) より

道路の役割

●日常生活と社会経済活動に不可欠な施設であり、適切に維持管理し現在の機能を低コストで長期にわたり発揮していきます。

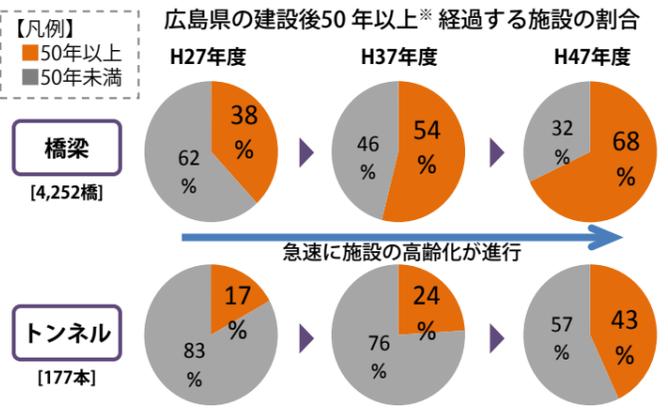
現状と課題

- これまでの着実な取組により、本県の道路整備は一定の水準に達しています。
- 道路施設は膨大であり、その多くが高度経済成長期に建設され、急速に高齢化が進行しています。
- 限られた財源の中で、既存の道路を良好な状態で長期的に活用するために、計画的なメンテナンスが重要です。

管理施設の状況 (平成27年12月現在)

主要な施設	管理数	備考
道路延長	4,176km	国道994km, 県道3,182km
橋梁	4,252橋	内, 15m以上の橋1,313橋
トンネル	177本	トンネル155本, 洞門22本
舗装	3,809万㎡	
法面	9,171箇所	自然斜面, 人工斜面
附属物	28,530基	案内標識, 照明など

道路施設の老朽化



老朽化対策の事例

橋梁



トンネル



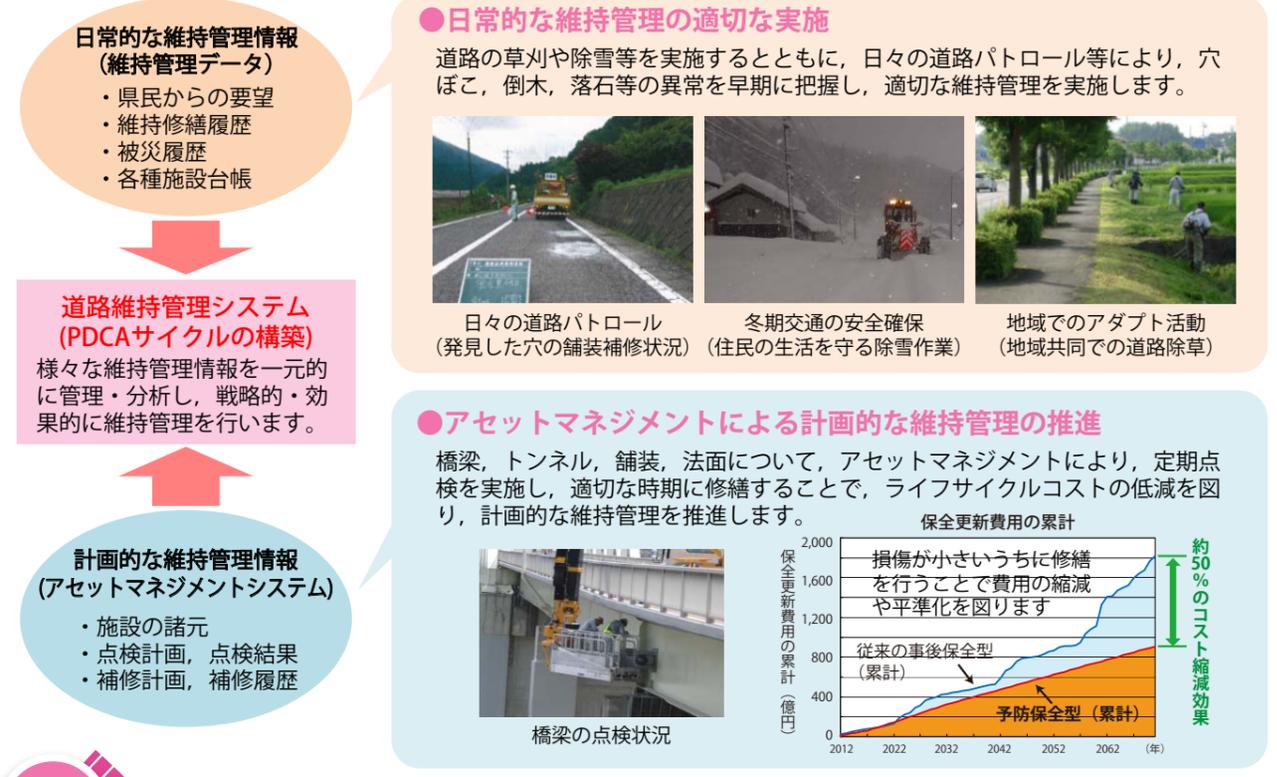
※一般的に建設後50年を超えると、大規模な修繕工事や更新が必要となります。

取組の方向

安心な暮らしづくり

- 道路施設の日常的な維持管理の適切な実施
 ⇒草刈や除雪などの日常的な維持管理を適切に実施し、地域住民の生活を守ります。
 ⇒アダプト活動等により、道路への愛着心の醸成や地域全体での道路空間の保全と創造を図ります。
- 道路施設の戦略的な維持管理の推進～インフラ老朽化対策の本格実施～
 ⇒道路維持管理システムを活用し、「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」、「修繕方針」に基づき、戦略的な維持管理・更新を行います。
 ⇒橋梁・トンネル等の近接目視による定期点検や健全度の判定、点検・診断結果に基づいた措置を実施する等、メンテナンスサイクルを確立します。
 ⇒国、市町と連携した『広島県道路メンテナンス会議』を通じて、予算・体制・技術支援など、メンテナンスサイクルを持続的に回す仕組みを構築し、効率的・効果的な老朽化対策に取組みます。

道路施設の戦略的な維持管理



指標

指標名	現状	目標
暮らしの身近な道路を守り、後世に残します。		
橋梁施設数に対する健全度Ⅰ,Ⅱ※の占める割合	(H26) 87.9%	(H35) 100%
トンネル施設数に対する健全度Ⅰ,Ⅱ※の占める割合	(H26) 68.8%	(H30) 100%

※健全度Ⅰは健全な状態、健全度Ⅱは直ちに補修を必要としない状態。

用語説明

インフラ…特定の人のものではなく、全ての住民の生活を支える基盤として適切な維持、円滑な運営が求められるものの総称。
インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み…広島県の公共土木施設の維持管理・更新を計画的に進めるため、長期的な修繕費を試算するとともに、今後の取組を取りまとめたもの。平成26年9月策定。

修繕方針…「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」に基づいて、個々の施設を適切に修繕するため、施設分類毎に具体的な修繕方針を取りまとめたもの。
アダプト活動…住民団体・学校・企業など地域の方々が、ボランティアで道路・河川の美化・清掃などに取り組む活動。
健全度…施設の健全性の診断を4段階で行ったもの(Ⅰ健全,Ⅱ予防保全段階,Ⅲ早期措置段階,Ⅳ緊急措置段階)。
アセットマネジメント…公共土木施設を資産(アセット)としてとらえ、将来の施設の状態を予測し、初期建設費用+維持管理費+更新費用(ライフサイクルコスト)が最小となる補修工法と補修時期を選定する総合的な管理・運用(マネジメント)方法。
広島県道路メンテナンス会議…道路管理者が相互に連絡・調整・協力・情報共有・情報発信等を行い、道路施設の点検、修繕計画等の把握調整や技術的支援等により、道路施設の予防保全や老朽化対策の強化を図ることを目的に設立した会議。